

NEWS

難民保護と難民問題の解決に向け、UNHCRは多くのパートナーとともに活動し、そして支えられています。ファーストリテイリング、IKEA、そして上智大学との連携をご紹介します。

アフリカに 300万着届けよう UNIQLO RECYCLE



株式会社ファーストリテイリングは、2006年からUNHCRと連携し、世界中の難民、避難民に服を届けてきました。現在は「全商品リサイクル活動」として日本を含む世界14カ国のユニクロと、ジーユー店舗で服の回収を行っています（ジーユーは日本のみ実施）。これまでUNHCRとの連携のもと難民、避難民に届けられた服は1000万着を超えました。そして現在「アフリカに300万着届けよう」キャンペーンが行われています。目標回収数は300万着です。カラフルなユニクロ、ジーユーの服は寒さ暑さから身を守るだけでなく、厳しい難民キャンプでの生活に明るさをもたらします。皆さんも是非ご参加下さい！



ケニア カクマ難民キャンプ ©UNIQLO

“届けよう、服のチカラ” プロジェクト

“届けよう、服のチカラ”プロジェクトとは、子どもたちが主体となって、着なくなった子ども服を回収し、難民など世界で服を本当に必要としている人々に届ける活動です。ユニクロの社員が学校を訪問し、服のチカラについて出張授業を行います。子どもたちは校内・地域へ協力を呼びかけ、子ども服を回収・発送します。その後ユニクロから、難民キャンプに服を届けた様子のフォトレポートが学校に届きます。



©UNIQLO

難民キャンプに 届く希望の光



IKEA FoundationとUNHCRは、今年2月～3月「難民キャンプに明かりを届けよう」キャンペーンを実施しました。このキャンペーンは世界中のイケアの店舗で実施され、期間中LED電球・レーダレ（LEDARE）を1つ購入するごとにIKEA Foundationを通じ1ユーロがUNHCRに寄付されました。

このキャンペーンを通して集まった寄付額は1080万ユーロ（約14億円）。バングラデシュ、チャド、エチオピア、ヨルダンなどで避難生活を送る38万人以上の難民に太陽光発電による街灯や室内用のソーラーランタンなどが届けられます。



「キャンプの夜は長く、明かりさえあれば、日が暮れた後も人々は自由に活動できます」ヨルダン アズラック難民キャンプ ©UNHCR/S. Baldwin



「わが家よりすばらしい場所がありますか？ わが家はいつでも自分にとってのパラダイスです」 ©UNHCR/S. Baldwin



「キャンプで明かりがあれば人間らしい暮らしを取り戻せます。明かりがあれば夜勉強したり、友人と交流できるようになります」 ©UNHCR/S. Baldwin



©UNHCR

上智大学と教育連携協定を締結



上智大学 早下隆士学長(写真左)とマイケル・リンデンバウアーUNHCR駐日代表(写真右) ©UNHCR

2014年10月、UNHCR駐日事務所は上智大学と教育連携における包括的な協定を締結しました。UNHCR駐日事務所はこの協定に基づき、今後上智大学が行う研究活動への協力、授業やシンポジウムへの講師派遣、上智大学在学生のインターンシップ、また様々な啓発キャンペーンやプログラムなどを共同で実施します。

上智大学は2014年6月から、国連と世界各国の高等教育機関とのパートナーシップを結び取り組み「国連アカデミック・インパクト」に参加しています。国連を通じて世界の諸問題について考える啓発イベント「上智大学国連week」の開催や、開発途上国に学生を約半年間派遣する国連ユースボランティアプログラムへの参加などを積極的に行っています。

WEB
サイトは
こちら▶



国連難民高等弁務官 (UNHCR) 駐日事務所
〒107-0062 東京都港区南青山 6-10-11 ウェスレーセンター
TEL:03-3499-2011 FAX:03-3499-2272

HP www.unhcr.or.jp
Facebook www.facebook.com/unhcrorjp
Twitter @UNHCR_Tokyo

SYRIA CRISIS

2015 Vol.1

At a Glance

シリア紛争 5年目に突入

シリア紛争が5年目に突入した。周辺国へ逃れた難民、シリア国内の避難民が直面する状況は過酷を極めており、国際社会による支援がつかないほど求められている。紛争への政治的解決策が見出せず、400万人のシリア難民がトルコ、レバノン、ヨルダン、イラク、エジプトへ逃れている。

シリア国内では1200万人以上が生きるための支援を必要としている。家を追われ、屋外や廃墟での共同生活を強いられている人は約800万人いる。さらにそのうち480万人が武装勢力に包囲されるなど、支援が届けにくい地域にいる。多くの人々が心に傷を抱え、健康状態も悪い。シリアにあった4分の1の学校が紛争によるダメージを受け、半分以上の病院が破壊された。シリア国内では240万人の子どもが、そして周辺国で難民となった子どもの半数が学校へ行っていない。



©UNHCR/A. McConnell



©UNHCR/S. Baldwin



©UNHCR/A. D'Amato

▲レバノンに避難しているシリア難民の親子。家族はドイツへ第三国定住することが決まっている。病気に苦しむ家族は受け入れ先のドイツで治療を受ける予定だ。

▲シリア紛争から逃れ、イラク北部のクルディスタン地域、ドホークを目指すシリア難民。

▼小さなボートでイタリアを目指すシリア難民。写真奥に見えるのはボートを発見して救助するイタリア沿岸警備隊の船。イタリアなど欧州で庇護を求めると、毎年多くの難民が地中海を渡るが、命を落とす人が後を絶たない。

求められる国際社会の支援

国連機関とパートナー団体は2014年12月に過去最大の84億米ドルの緊急支援要請を行ったが、もしこの額が集まれば難民への必要最低限の生活支援と、受け入れコミュニティのインフラやサービス強化にも充てることが可能になる。

日本政府は2015年、シリア難民と国内避難民、イラクの国内避難民に対する現金給付事業、保健医療、難民登録事業、越冬支援、生活物資配布、住居支援、コミュニティ・センターの建設・運営などの支援のために4813万9278米ドルを拠出した。

シリア紛争5年目に際し アンジェリーナ・ジョリーUNHCR特使によるメッセージ

「シリア紛争の解決に向け、これほどまでに国際社会の対応が遅れていることに強い危機感を感じます。

周辺国及び人道支援にあたる国際機関はすでに限界に達しています。罪が裁かれることなく、日々シリアの人々が犠牲になっています。

この責任は私たち全員にあります。各国政府は協力し合い、紛争の政治的解決に向け取り組むよう求めます。」



©UNHCR/A. McConnell

2015年1月にイラクを訪れたジョリー特使

ヨルダン都市部：シリア難民の状況

ヨルダンの都市部で避難しているシリア難民の生活は過酷である。キャンプ以外で暮らしているシリア難民15万人から収集したデータに基づくUNHCRの報告書(Living in the Shadows)によると、ヨルダンに避難したシリア難民の3分の2が国内貧困ライン未満の生活をしている。また、6人に1人が、1日1.3米ドルという厳しい貧困状態の中で暮らしていることがわかった。アントニオ・グテーレス国連難民高等弁務官は「シリア難民は二重の危険にさらされている。終わりの見えないシリア紛争の犠牲者であり、絶望に苦しむと同時に、避難先で厳しい貧困状態での生活を余儀なくされている」とその窮状を訴えた。

©UNHCR/J. Kohler

難民高等教育プログラム

難民高等教育プログラム=Refugee Higher Education Program (RHEP)
RHEPとは、高等教育へアクセスのない難民に対して大学における4年間の学部教育の機会を提供するプログラムです。日本では関西学院大学、青山学院大学、および明治大学がこのプログラムを通して、日本に住む難民の学生を受け入れています。現在、日本に滞在する難民の多くが経済的理由などのために、高等教育を断念せざるを得ない状況に置かれています。その結果、何らかの高等教育を受けた人に比べて雇用機会が限定されています。奨学金と生活費を支援するこのプログラムは、厳しい生活を送りながらも大学で知識や専門性を身につけたいと強く望む難民の学生に大きな希望を与えるものです。

それぞれの大学がどのような思いで難民の学生を受け入れて来たのか。
そして実際に大学で学んでいる学生は何を学び、どんな夢を描いているのか。

思いの込もったメッセージを是非受け取って下さい！

関西学院大学 村田 治 学長



関西学院大学は2006年に日本で初めてUNHCR駐日事務所と協定を結び、同事務所が推薦する難民を正規学生として迎える入学制度を設置し、これまで15名を受け入れてきました。設置のきっかけは同事務所から多くの難民が教育を受ける機会を得ていない実情を述べられたことにより、多様な背景をもつ難民が入学することは、難民自身への支援にとどまらず、日本人学生や教職員にとって迫害や紛争等の国際問題に目を向ける良い機会となっています。この制度で入学した難民学生が、将来大学で学んだことを国際社会に還元し、よりよい社会を作る担い手になってくれると期待しています。

青山学院大学 仙波 憲一 学長

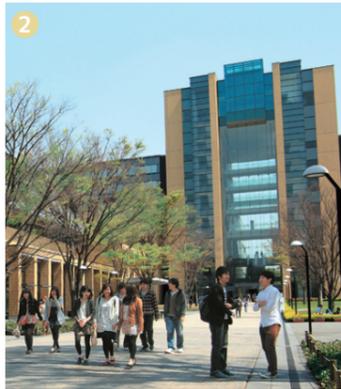
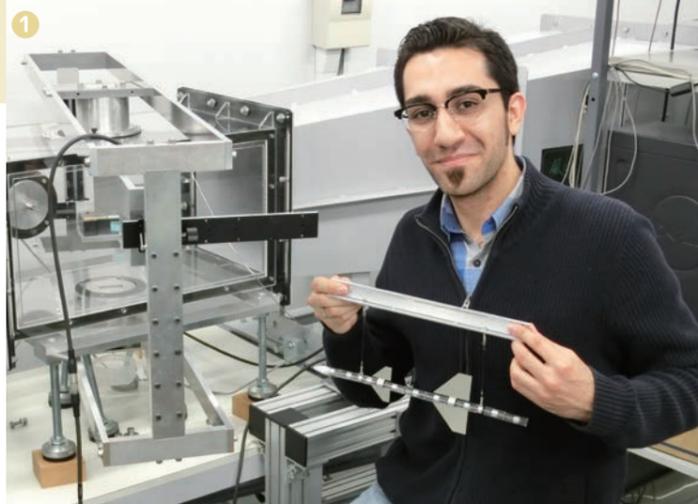


人間が学び知見を広げ、自身の可能性を切り拓き生活を豊かにし、人生の質を深めることは人間にとって基本的な権利の一つです。個人の意思とは別に、生まれ育ちの環境で残念ながら教育の機会が得られない若者に対し、教育機関は学びの場を提供する義務があります。本学も微力ながらその場を提供してきました。教育を通して次世代の社会の担い手を育成することは、国際社会の発展に関し極めて高い外部効果が期待できます。世界にある幾多の差別や格差の解消に向けて、さまざまな取り組みをしているUNHCRの教育プログラムの一助になれば幸いです。

明治大学 福宮 賢一 学長



明治大学は、2011年から難民高等教育プログラムの学生を受け入れています。それは、「権利自由」「独立自治」の建学の精神の下、基本的な人権の尊重と自律した個の確立を目指す本学の創立以来の精神と、UNHCRの理念が深く通じるものがあるからです。本プログラムで入学した学生は、本学に大きな影響をもたらしており、本年3月には、優秀な成績を修めた一期生が卒業しました。様々な生い立ちを持つ皆さんが、本学での勉学や学生交流を通じて、先行き不透明な現代社会をしなやかにたくましく生き抜く「未来開拓力」を養い、平和と豊かさを共有する社会を実現するための一翼を担ってくださることを期待しています。



1. 飛行機の模型を使って翼のフラッター(振動)の実験中
2. 充実した研究環境の相模原キャンパス

青山学院大学 理工学部 ヘシィーさん

日本に来たのはいつですか？
2006年に日本に来たので9年目になります。日本はきれいで安全で人々が優しいという印象です。また機械、ロボットといった分野での最先端のテクノロジーにも驚かされました。

なぜ青山学院大学を受験したのですか？
もの作りと、宇宙に関心があったからです。青学のような日本でトップレベルの大学で、機械工学を学べたら素晴らしいと思いました。

大学では今、何を学んでいますか。
JAXAと連携しているので、授業ではJAXAの方の講義を受ける機会もあります。ラボワークでは、フラッター現象*の研究をしました。研究を発表する機会もあります。学びの中にいつも新しい発見と感動があり、とても楽しいです。

*高速飛行中の飛行機の翼や胴体などが風や気流のエネルギーを受けて起こす破壊的な現象

今大学で勉強していることを将来、どのように活かしたいですか？
勉強していることをもとにJAXAのような宇宙関係の仕事につくのが夢です。また日本に来てからNGO、大学、先生、学生、UNHCRといった様々な関係者にサポートしてもらいここまで来ました。だから自分も困っている人がいたら助ける、そんな人になりたいです。

皆に知ってもらいたいこと、メッセージなどありましたら教えてください。
人は生まれてくる国、性別、親などを選ぶことができません。たまたま生まれた場所などによって、生きる上での選択肢が限られることがあります。何かの、あるいは誰かの役に立ちたくても、それが叶わないこともあります。

私は日本に感謝していますが、母国に帰ることも出来ないし、日本ではやはり外国人です。国籍を証明するパスポートも持っていません。そういう意味では複雑な思いを抱えています。日本は平和な国で、難民について身近に感じることは少ないかもしれませんが、でも本来それは素晴らしいことだと思います。考えなくても良いような世界を私たちが作り出せたらと思います。

関西学院大学 国際学部 ドアン・ティ・チャンさん

日本に来たばかりの頃はどのような思いで毎日過ごしていましたか？
私が1歳の頃父がベトナムから日本に逃れ、2005年に母と姉とともに日本にきました。日本に来たばかりの頃は寂しくて、孤独でしたが、自分の人生を歩んで行く為に日本語をきちんと勉強しようと決め、毎日漢字を10個ずつ覚えました。

なぜ関西学院大学を受験したのですか？
120年以上の歴史のある大学で、きれいなキャンパスに魅力を感じました。また留学生が多く、皆イキイキしていると感じました。国際学部では言語だけではなく、経済や経営についても勉強することができるので、将来に大いに役立つと考え関西学院大学を選びました。

関西学院大学では、何を学んでいますか。
1年次は会計学と簿記基礎を勉強し、2年次からは経営学とマネジメントの授業を取って勉強してきました。

学生生活で一番楽しいことは？
ゼミなどのグループワークが楽しいです。自分と違う考え方を持っている人の話には刺激を受けます。その中で自分の欠点もわかってきて、改善すべきことが沢山あると気づかされます。

すでに起業されていますが、活動内容を教えてください。
日越進出コンサルティングと輸出入コンサルティング、また技術者・実習生の紹介業、商品を外国の買い手に紹介する仕事などを行っています。

日本、ベトナム、両国への思いは？
日本は自分が生まれた国ではありませんが、私がこんなに成長できたのは周りに応援してくれる日本人がいたからです。とても感謝しています。ベトナムは自分が生まれ育った母国なので、忘れられない大事な国です。

チャンさんの夢はなんですか？
ベトナムと日本の懸け橋になることです。



1. ベトナムの民族衣装アオザイが似合うチャンさん
2. 関西学院大学のシンボルである時計台
3. ゼミの一場でビジネスプランコンテストのプレゼンに挑戦。「にしのみや学生ビジネスアイデアコンテスト2013」の優秀賞も獲得したそうです！



明治大学 国際日本学部 ジャファル・アタイさん

日本に来たのはいつですか？
日本に来たのは2009年です。アフガニスタンでの内戦を受け、5歳の頃に国内での避難生活が始まり、1998年パキスタンへと逃れました。その後治安の悪化を受け、安全な場所を求めて日本へ避難しました。

RHEP(難民高等教育プログラム)を知った時どう思いましたか？
安定した収入がなく生活も不安定だったため、大学で勉強したいと言える状況ではありませんでした。でもこのプログラムを知り、絶望が希望に変わったんです。

明治大学を受験した理由は？
日本のことをもっと学べる学部を探していました。明治大学の国際日本学部を知った時は「これだ！」と思いました。世界との関わりの中で日本について勉強できる、関心のある分野でした。

明治大学では今、何を学んでいますか。
日本の言語、平和、国際関係、宗教などを調べたり、議論したりしています。大学で勉強するのは大変かと思っていましたが、自分の意見を述べたり議論するのは本当に楽しいです。

勉強以外ではどんな活動をしていますか？
明治大学のMIFO (Meiji International Friendship Organization) という団体に所属し、不要になった物を集めてフリーマーケットで売り、そのお金をアフガニスタンの子ども支援のために寄付する活動を行なっています。

日本に対してどのような思いを持っていますか？
今アフガニスタンでは、学校や病院が日本の支援で建てられていますし、市民の大事な交通手段として日本のバスも走っているそうです。苦しんでいる人の生活に直結する支援を日本がしている事は素晴らしいと思います。

伝えたいメッセージなどありましたら教えてください
難民というと「こわい」というイメージが持たれている気がしますが、でも辛い経験をしており、優しい心を持っている人が多いと私は思います。だからもっと応援して欲しいです。



1. 図書館で勉強するアタイさん。「これまで多くの人に助けられた分、沢山勉強して今度は自分が助ける立場になりたいです。できればNGOなどに入り、アフガニスタンの支援が出来たらと思います」と夢を語ってくれました。
2. 明治大学の本拠地、駿河台キャンパス
3. アフガニスタンでもよく飲まれる緑茶。「これはチューリップが大好きな母に父がプレゼントしたコップです。」